

## 令和5年度(2023年度)第1回 函館市地域支え合い推進協議体 会議概要

### ■ 日 時

令和5年(2023年)9月6日(水) 14:00～15:00

### ■ 場 所

函館市役所 8階第2会議室(東雲町4番13号)

### ■ 議 事

1 開会

2 報告

函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告

3 議事

生活支援コーディネーターの普及啓発について

4 その他

5 閉会

### ■ 配布資料

資料「函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」

### ■ 出席委員(8名)

阿知波委員, 池田委員, 河合委員, 川上委員, 齊藤委員, 四戸委員, 能川委員, 林委員

### ■ 傍 聴

3名

### ■ 報道機関

2名(函館新聞社, 北海道新聞社)

### ■ 市職員(事務局)

保健福祉部地域包括ケア推進課 小棚木課長, 岩島主査, 石黒主任

## ■ 会議要旨

### 1 開会

### 2 報告

函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告

#### 池田会長

---

それでは、「2 報告 函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」について、第1層生活支援コーディネーターの齊藤委員から説明をお願いしたい。

#### 齊藤委員

---

(資料「函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」に基づき、取組みを説明)

- ・見守り活動ちょこっと見守りプロジェクト
- ・フォローアップ研修
- ・おじさんプロジェクト (仮称)

#### 池田会長

---

今聞いていて、少しずつでも進んでいるような感じがする。

ただいまの説明について、皆様から何か意見はあるか。阿知波委員はいかがか。

#### 阿知波委員

---

ボランティアの対象を学生の方に広げられているのが素晴らしい。

令和3年度までは、くらしのサポーターの研修を私たち社会福祉協議会が受け持ち、第1層生活支援コーディネーターは別の団体が受け持っていた。

研修について、自分の体験談で言うと、ついつい全市の取組みと考えると、全市全市と急いでしまい、失敗してしまう。ご報告をお伺いし、大妻高校と市立函館病院高等看護学院(以下、「市看」という。)で、地区で固めていって段階を踏んで、全市に向けていくというアプローチが素晴らしいと思った。

第1層生活支援コーディネーターに(くらしのサポーター養成研修受講済登録者を)引継いでから時間が経ってしまい、コロナもあり、引継ぎ時の80人から辞退により60人になり、残念な思いもあるが、今、本来の形である、第1層生活支援コーディネーター業務とボランティア養成とが一体になったので、以前に社協が養成研修、ボランティア関係をやってきた経緯から、引き続き何かご協力できる場所があればと思う。

## 齊藤委員

---

そう言っただけだと非常にありがたい。

## 池田会長

---

以前に、まちづくりをやった時も、函館市全体で、理論構築しながら進めていきたいと思いますという形で作ってきたが、結果的に潰れてしまった。

そういった意味では、今、阿知波委員が言ったけれども、小さな核でもいいから、それを作りながら発展させていって、段々かためていく形を作っていた方が、最終的には実りあるものになってくるのではないかと。今やっている方法が、私は間違っていないと思う。

河合委員はどう思うか。

## 河合委員

---

高齢者の孤立予防ということで、私も利用者さんをたくさん受け持っているが、地域と繋がりが少ない方が多いかなという印象を受けている。なので、看護学生の見守り活動はすごくいいなと感じた。

前にもお伝えしたが、一つの意見として、支え合うというところで、見守りを受けた高齢の方で、もし動けるような方がいらっしゃれば、防犯パトロールではないが、散歩がてらに外に出てもらい、今度は学生を見守ってあげるといような、支え合うような関係を作れるといいのかなと思う。

外に出ることで、資料にもあるが、「① 地域の高齢者が自身の介護予防のために」というところに繋がるし、高齢者の生活にもやりがいというか、生活の質も上がるのかなと思う。

## 池田会長

---

参考にしてみてください。

## 齊藤委員

---

はい、ありがとうございます。

## 池田会長

---

林委員はいかがか。

## 林委員

---

形として出来てきているのがすごいなと思う。

最初、学生がこういうことに協力することはできないのかなと勝手に思っていたが、このように学生が声をかけると高齢者はものすごく喜ぶのではないかと。

普段話をしない、その人と会って、ちょっとした一言が笑顔に繋がるというところで、ものすごくいいプロジェクトだなと思った。

## 池田会長

---

ボランティアといえば、能川委員はいかがか。

## 能川委員

---

この内容から多少外れるが、私が（函館市ボランティア連絡協議会）会長になって9年目になるが、なった時には加盟団体74団体あったが、現在は60団体で、14団体が退会、各団体によって事情は違うが、多少似通っている部分があるとすれば、高齢者が多い団体は、その団体のリーダーが体調を崩したり、転勤まではないが、別な事情でいなくなったりして、運営できなくなっている。

私が見る限りでは、40代・50代の若い人が入っている団体が頑張っていると、70代・80代のリーダーの人が一生懸命になっている。

先ほどの報告を見て、やはり若い人が動いてくれるということは、すごい力があるのではないかと感じた。

今、我々が感じているのは、60代近い人の閉じこもりになっている状態について、市内にはかなりの数がいるのではないかと、ということです。私はわずか5、6世帯しか知らないが、その世帯には支援には入れず、よっぽど近い人でないと介入は難しいと考えている。

でも、さっきの報告でいくと、学生が閉じこもりの方のところに、時間をそんなにかけなくても、何度かでも来てもらったら、ひよっとすると門を開いてくれるかなという感じがした。そして、できれば閉じこもりの人が見守る側になってもらえればと、この報告の中で感じた。

ボランティア活動の会がどんどん減っていくのが、非常に今、頭が痛い問題なので、役員会でどうしようかと取り組んでいるところであり、つい、先日、若い女性のボランティアから、もう少し発想を変えてボランティアを考えたらどうかと言われた。今日の話の中で、ちょっとヒントがありそうだなと感じた。

## 3 議事

生活支援コーディネーターの普及啓発について

## 池田会長

---

では、次に、「生活支援コーディネーターの普及啓発について」をお願いします。

## 齊藤委員

---

（資料「函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」

に基づき、普及啓発および機関紙の説明)

機関紙を作成する時に、マスコットキャラクターのようなシンボルマークがあると、これが付いているものは、生活支援コーディネーターだと分かるものがあると良いのではないかと思います、皆様からご助言をいただきたい。

生活支援コーディネーターを知ってもらうためにも、広く公募できたらいいかなと思うが、どういった機関にどのように応募して、どの期間でどう決定していけばよいのか少しご助言いただければと思う。

池田会長

---

川上委員はいかがか。

川上委員

---

昨年の暮れ、町会連合会で丸井デパートを利用して、町会に入りませんかと各小・中学校に絵画募集をしたところ、540点の応募があった。小・中学校を上手く利用して、このようなキャラクターをお願いするのはどうか。

池田会長

---

マスコットを募集するのなら、試してみてもいいのでは。

岩島主査

---

全市に一般公募するわけではないので、どこにターゲットを当てるのか、高校生なのか専門学校なのか、どこがよいかということか。

齊藤委員

---

高齢者というよりは、学生の方が、かわいらしいものを作ってくれるのかなと考えている。

川上委員

---

それはやっぱり、学生をお願いするのが一番だと思う。

齊藤委員

---

小学生だとちょっと子供っぽくなってしまうので、もう少し上の学年の方がいいのか。

川上委員

---

協力してくれてる幅が狭くならないか。

齊藤委員

---

大妻高校とか市看とか。

川上委員

---

趣旨を理解してくださってるとか。

齊藤委員

---

限定してもよいものか。

岩島主査

---

私が意見を言うのも何だけれども、これからもっと、例えば、函病の看護学校だけでなく、厚生院の看護学校やリハビリの学校とかもイメージがあるのであれば、そこにもターゲットを当ててもいいのかなと思う。どんなものでしょうか。

川上委員

---

我々は単純に、教育委員会を通した。

池田会長

---

缶バッチはどうか。

齊藤委員

---

缶バッチもいいですね。ちょっとお金がかかるが。

池田会長

---

要するに分かるような形にしたいということか。

齊藤委員

---

まずは機関紙に載せるとか、チラシに載せるとか。

池田会長

---

缶バッチを付けて行くとか。

齊藤委員

---

高校生に缶バッチをつけてもらうとか。

池田会長

---

これは、今回の予算の中でできるものなのか。

齊藤委員

---

予算を組んでいないので、どのくらいお金がかかるものなのか分からない。

池田会長

---

オーバーしたら、市として何かあるのか。

小棚木課長

---

予算内でということになります。

岩島主査

---

今年度作るという話でなく、まずは公募してキャラクターを決めて、機関紙を作って、それが段々波及して行って、缶バッチとかもっと何か違う物が出来上がってくるイメージでは。

齊藤委員

---

はい。公募して決定する時にも、この期間で一度見ていただければいいのかなと思う。

池田会長

---

新年度の予算はいつだったか。

小棚木課長

---

2月頃に毎年固めている。

池田会長

---

これからそういう構想して動くと言っても、今すぐ出来て動くわけではない。新年度に向けての話になる。

齊藤委員

---

今、公募して出来上がっても、来年にかかると思うので、まずは来年中に決まったものを集めて行って、ちょうど来年度で契約が一旦切れるので、そこから契約するかどうかはうちの法人に聞かなくてはならない。

池田会長

---

缶バッチつくるのに数万円程度か。

小棚木課長

---

出所が委託料になるのか，私どものこういった会議を開く時の，消耗品費だとか，必要だということであれば，何かしらご相談させていただければと思う。

池田会長

---

協力してやってほしい。そのほかに齊藤委員，何かあるか。

齊藤委員

---

ない。

#### 4 その他

池田会長

---

では，全体を通して何か意見はあるか。

全委員

---

(意見なし)

池田会長

---

皆様，色んなご意見ありがとうございました。我々も何とかバックアップしてやっていきたいと思うので，皆様からまた良い意見があったらよろしくお願ひしたいと思う。

今日はどうもありがとうございました。では，事務局に返します。

#### 5 閉会

岩島主査

---

池田会長，ありがとうございました。

次回の協議体については，開催の目途が立ったら委員の皆様には日程をお知らせするので，よろしくお願ひしたい。

これをもって，令和5年度第1回函館市地域支え合い推進協議体会議を終了する。

本日はありがとうございました。